

病害虫情報(第11号)3月予報



平成27年3月2日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 3月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 1
【カンキツ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、春キャベツ】
- II 3月の病害虫発生予報の内容とその根拠 7
- III 3月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部2月25日発表3か月予報)及び気象の経過 9

- 農薬を使用する際は、製品に記載されている使用基準を必ず確認するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- 収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要がある場合は関係機関にご相談ください。

※ 農薬に関する情報は、平成27年2月20日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 3月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

【カンキツ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 感染時期 ←——→ 防除適期

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				防除のポイント
			3月			4月	
			上	中	下	上	
ミカンハダニ	並	△		越 冬		—————	❖冬期に防除しなかった園は、この時期に必ず防除する。
かいよう病(中晩柑類)	—	○		感染期	

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミカンハダニ	マシン油乳剤(97%, 98%)
	★ 農薬使用のポイント
	○ マシン油乳剤: 商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。
かいよう病	(予) コサイド3000 [発芽前,-] 1,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予) ICボルドー66D [-,-] 25~200倍

等

病害虫情報 (H26・No. 11) …… 神奈川県農業技術センター

【ウメ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←——→ 防除適期

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				防除のポイント
			3月			4月	
			上	中	下	上	
かいよう病	—	○	←——→	←——→	感染期	←——→	❖多発園では、早期から予防散布を行う。強風雨時に感染するので、降雨前の散布を心掛ける。
アブラムシ類	—	○	←——→	←——→	←——→	←——→	

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

かいよう病	【萌芽前】 (予) ズボルドー [葉芽発芽前まで, -] 500倍 + クレフノン [-, -] 200倍 【萌芽後】 (予・治) マイコシールド [21日, 4回] 1,500倍	等
アブラムシ類	スミチオン乳剤 [14日, 2回] 1,000~2,000倍 チェス顆粒水和剤 [21日, 2回] 5,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [7日, 2回] 2,000~3,000倍	等

【チャ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←——→ 防除適期

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				防除のポイント
			3月			4月	
			上	中	下	上	
もち病	やや多	○			←——→	感染期…	❖前年の多発園では必ず散布する。
チャハマキ チャノコカクモンハマキ	—	○		幼虫・蛹	成虫	←ハマキコン-N	
カンザワハダニ	やや多	○	越冬	←——→	←——→	←——→	❖初期防除に重点をおく。

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

もち病	(予) ドイツボルドーA [14日, -] 500倍	等
チャハマキ チャノコカクモンハマキ	ハマキコン-N [成虫発生初期~終期, -] 150~250本/10a ★ 農薬使用のポイント ◎ ハマキコン-N: 成虫の発生初期から使用すると防除効果が高い。	等
カンザワハダニ	【萌芽前】 オマイト乳剤 [14日, 2回] 1,500~2,000倍 【萌芽後】 パロックフロアブル [14日, 1回] 1,000~3,000倍 ★ 農薬使用のポイント ◎ オマイト: 萌芽期~展葉期散布は葉害を生じるので使用しない。	等

病害虫情報 (H26・No. 11) …… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				防 除 の ポ イ ン ト
			3月			4月	
			上	中	下	上	
灰色かび病	並	○	————	~~~~	~~~~	~~~~	❖ 受粉の終わった花殻や枯れた葉先はなるべく早く除去する。
葉かび病	—	○					❖ 多湿状態にならないように管理する。
タバココナジラミ	並	○	————	————	————	————	❖ TYLCV(黄化葉巻病)を媒介。

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

灰色かび病 葉かび病	<p>(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病:10~15g/10a/日</p> <p>(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 灰色かび病:1,000~1,500倍</p> <p>(予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [前日,3回] 1,000倍</p> <p>(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍</p> <p>★ 農薬使用のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボトキラー:発病前からの使用が効果的である。 ● アフェット(2,000~4,000倍):うどんこ病にも適用あり。 	等
コナジラミ類 タバココナジラミ	<p>バリアード顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍</p> <p>アニキ乳剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍</p> <p>クリアザールフロアブル [前日,2回] 2,000~4,000倍</p> <p>サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300倍</p> <p>★ 農薬使用のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バリアード:アブラムシ類にも適用あり。 ● アニキ(2,000倍):トマトサビダニにも適用あり。 ● クリアザール(2,000倍):トマトサビダニにも適用あり。 ● サンクリスタル:アブラムシ類・トマトサビダニ(300~600倍)、うどんこ病(300~600倍)にも適用あり。 	等

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ポリオキシシンAL(1日)、アニキ(1日)、アフェット(不明)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報 (H26・No. 11) …… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ———— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←————→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				防 除 の ポ イ ン ト
			3月			4月	
			上	中	下	上	
べと病	やや多	○	←→	←	~~~~	~~~~	❖ 過湿になると多発する恐れがあるため注意する。午後はできるだけ換気に努める。 ❖ 乾燥は発生を助長するので、過乾燥に注意する。
うどんこ病	やや多	○					
アブラムシ類	並	○	←→	←	→	←→	
タバココナジラミ	並	○					
ミナミキイロアザミウマ	並	○					

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

べと病	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) シマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予・治) アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400~800倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● ダコニール: 灰色かび病にも適用あり。		
うどんこ病	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッション水和剤 [発病前~発病初期,-] 500~1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,5回] 2,000倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● インプレッション: 灰色かび病にも適用あり。		
● ベルクート: 灰色かび病、菌核病にも適用あり。		
アブラムシ類 コナジラミ類 タバココナジラミ アザミウマ類 ミナミキイロアザミウマ	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アザミウマ類、アブラムシ類: 2,000~4,000倍 コナジラミ類: 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類: 500~1,000倍 コナジラミ類: 500倍 アブラムシ類: 1,000倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● モベント: ハダニ類にも適用あり。		

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合: 1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合: 1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合: 1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ、ベトファイター)の場合: 1作2回

病害虫情報 (H26・No. 11) …… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←————→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				防 除 の ポ イ ン ト
			3月			4月	
			上	中	下	上	
灰色かび病	やや多	○	←——→	~~~~~	~~~~~	~~~~~	❖ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 ❖ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 ❖ 窒素過多や草勢低下のときに多発しやすいので、適正な肥培管理を行う。
うどんこ病	多	○					
アブラムシ類	やや少	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	
コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ	並 やや少	○					
アザミウマ類	並	○	←——→	~~~~~	~~~~~	~~~~~	
ハダニ類	やや多	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

灰色かび病	(予) ポトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] 500～1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日, 4回] 1,500倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● インプレッション:うどんこ病にも適用あり。		
うどんこ病	(予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予・治) トリフミン水和剤 [前日, 5回] 3,000～5,000倍 (予・治) ガッテン乳剤 [前日, 2回] 5,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● タフパール:展着剤ニーズを加用しない。		
● カリグリーン:展着剤を加用する。		
アブラムシ類 コナジラミ類	バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍	等
アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] 5,000倍 カスケード乳剤 [前日, 3回] ミカンキイロアザミウマ:4,000倍	等
ハダニ類	カネマイトフロアブル [前日, 1回] 1,000～1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● カネマイト:新葉の葉裏に褐変症状の葉害を生じることがある。		

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:アフエット(1日)、スピノエース(2日)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報 (H26・No.11) …… 神奈川県農業技術センター

【春キャベツ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				防 除 の ポ イ ン ト
			3月			4月	
			上	中	下	上	
灰色かび病 (三浦半島地区) (横浜・藤沢地区)	並 —	○	————	~~~~~	~~~~~	~~~~~	❖ 発病株は、見つけ次第早めに除去する。
菌核病 (三浦半島地区) (横浜・藤沢地区)	やや多 並	○	←————→	~~~~~	~~~~~	~~~~~	❖ 雨天が多い場合には、予防に努める。また発病株は早期に抜き取り、ほ場外で処分する。
コナガ (三浦半島地区) (横浜・藤沢地区)	やや少 並	○	————	————	←————→	~~~~~	

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

菌核病	(予) セイビアーフロアブル20 [3日,3回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 1,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [7日,2回] 1,500倍 等 ★ 農薬使用のポイント ● セイビアー:株腐病にも適用あり。 ● カンタス:株腐病にも適用あり。
コナガ	アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000~2,000倍 ハチハチ乳剤 [14日,2回] 1,000~2,000倍 フローバックDF [発生初期(但し、前日),—] 1,000~2,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ● ハチハチ(1,000倍):アザミウマ類にも適用あり。

病害虫情報

(H26・No. 11) …………… 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 3月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	並	1) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(±)
チャ	もち病	少	やや多	1) 前年10月の発生が平年よりやや多であったため、菌密度は平年よりやや多いと予想される。(+) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	カンザワハダニ	少	やや多	1) 前年10月の発生は、平年よりやや多かった。(+) 2) 前年10月の叩き出し落下虫数は、平年並であった。(±) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	ハモグリバエ類	少	並	1) 巡回調査では、1月は発生が平年並(±)、2月は発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
促成キュウリ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない予報。(+)
	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない予報。(+)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	オンシツコナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(H26・No. 11)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	灰色かび病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない予報。(+)
	うどんこ病	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない予報。(+)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	タバココナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	春キャベツ (横浜・藤沢地区)	菌核病	少	並
コナガ		少	並	1) 横浜のフェロモントラップへの誘殺数は平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(±)
三浦半島地区野菜				
春キャベツ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	菌核病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 早春キャベツでの発生が、平年並だった。(±) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(+)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 4) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多い予報。(±)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

Ⅲ 3月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部2月25日発表3か月予報)及び気象の経過

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	20%	40%	40%
日 照 時 間 *	40%	40%	20%

※ 2月19日発表1か月予報による

〈気象の経過〉[観測地 横浜地方気象台]

2月第4半旬まで

気温は、1～2,4半旬は平年より低く、3半旬は平年並った。

降水量は、1,3～4半旬は平年より少なく、2半旬は平年並だった。

日照時間は、1～2,4半旬は平年並、3半旬は平年より多かった。

